

大田市農業活性化プラン 概要版

～市民みんなが健康で豊かに暮らせるおおだし農業～



大田市では今後の大田市の農業振興に向けた総合的なプランである「大田市農業活性化プラン」を策定しました。

I. プラン策定の背景と目的

背景 大田市の産業振興と地域振興に大きな影響を与える農業の振興(儲かる農業の仕組みづくり、担い手の確保)は、緊急かつ重要な課題

目的 大田市の農業振興に向けた施策を強力かつ集中的に進めるため

期間 平成24年度～平成33年度(10年間)

(5年後を目途に改訂、指標・目標数値は平成28年度を設定)

位置付け 「大田市総合計画」及び「大田市産業振興ビジョン」の農業振興を支える計画

II. 大田市農業の現状・地域特性と主要課題

課題	担い手の減少	少ない農業所得	耕作放棄地の拡大
	<ul style="list-style-type: none">◆減少する生産人口と進む高齢化◆兼業農家の減少◆伸びない大規模農家数	<ul style="list-style-type: none">◆耕種部門の農業粗生産額の減少◆伸びない農業所得◆伸びない振興作物◆減少する小規模繁殖農家◆県平均を下回る子牛取引価格	<ul style="list-style-type: none">◆減少する耕地面積

地域特性

- ◆増加傾向にある乳用牛と採卵鶏
- ◆放牧への積極的な取組みと放牧農家の少ない離農率
- ◆認定農業者、集落営農組織数の増加
- ◆ぶどう、キャベツ、西条柿、メロン等の市場での高い評価
- ◆海岸部、平坦部から山間部の地形的特性
- ◆豊富な堆肥等の存在
- ◆広島圏域への時間的距離の短縮
- ◆地産地消の拠点として、道の駅内に「ぎんざん市場」のオープン

社会情勢の変化

- ◆地産地消の広がり
- ◆6次産業化・農商工連携の推進
- ◆自然、田舎への関心の高まり
- ◆農政の大転換

《関連計画》 ■大田市総合計画
■大田市地産地消推進計画

■大田市産業振興ビジョン
■大田市食育推進計画 等

大田市農業における主要課題

1. 生産振興による農業所得の向上
2. 農畜産物の販路拡大や高付加価値化による農業所得の確保
3. 豊富な堆肥等の有機質肥料を利用した安心安全な農産物づくり
4. 多様な担い手の確保
5. 農地の有効活用
6. 耕畜連携による自給率向上
7. 推進体制の強化

市民みんなが健康で豊かに暮らせるおおだし農業

《キーワード》「儲ける」「環境」「地産地消」

(1) 基本方針

産地化によるブランド化

消費者ニーズに対応した販売機能の強化

堆肥等を利用した安心安全な農畜産物の生産販売の推進

農畜産物の高付加価値化

担い手の育成

農地の利用促進

(2) 具体的施策

- ① 振興作物の重点化(重点作物の選定、生産支援)
【重点作物】石見銀山エコロジー米・特別栽培米
〈大規模農家・担い手向け5品目〉
キャベツ・いちご・ぶどう・メロン・西条柿
〈一般・小規模農家向け2品目〉
ゆず・えごま
- ② 栽培指導の強化(営農指導の充実・農業アドバイザーによる活動支援)
- ③ セーフティネット制度の検討
- ④ 石見銀山和牛のブランド化
(石見銀山和牛肉の販路確保、利用促進・優良雌牛、優良子牛の確保・畜産アドバイザーによる活動支援など)
- ① 地産地消の推進(推奨店制度の創設・普及啓発活動など)
- ② 少量多品目生産の拡大(生産・集荷体制の整備)
- ③ 学校給食への地元産農畜産物の供給拡大(生産・出荷体制の整備など)
- ④ 新たな市場開拓と情報発信の強化(販売推進体制の検討・強化)
- ① 堆肥等を利用した農産物づくりの推進(エコファーマーの育成など)
- ② 堆肥等を利用した農産物の有利販売の促進(専用ブースでの販売促進)
- ③ 耕畜連携の循環型農業の推進
(稲ワラ収集と堆肥散布を行う作業受託組織(コントラクター)の育成など)
- ① 6次産業化・農商工連携の推進
(加工品開発への支援・製造業者及び関係機関との連携強化)
- ① 認定農業者の支援(認定農業者の確保、育成・農業制度資金の利子補給など)
- ② 集落営農組織の支援(集落営農組織の設立、育成の促進・担い手不在集落への支援など)
- ③ 新規就農者の支援(新規就農者の確保、育成・農外企業の参入支援など)
- ④ 農作業のサポート体制の充実(農作業サポート体制の検討)
- ① 農地の利用調整機能の強化
(農用地利用改善団体設立の推進・農地利用集積円滑化団体などとの連携による利用調整機能の強化)
- ② 放牧の推進(集落放牧の推進)
- ③ 鳥獣被害対策の強化
(駆除班との連携・集落研修会の開催・鳥獣被害対策実施隊の組織化など)

(3) 指標・目標値(主なもの) [現状]H22年度(一部H21・H23) ⇒ [目標]H28年度

■重点作物の作付面積／販売額(JA共販分)			
・石見銀山エコロジー米	38ha	20,000千円	⇒ 40ha 22,750千円
・特別栽培米	33ha	24,600千円	⇒ 38ha 25,200千円
・キャベツ	10.0ha	21,502千円	⇒ 15.0ha 40,875千円
・いちご	1.2ha	17,607千円	⇒ 1.2ha 25,896千円
・ぶどう	5.4ha	34,711千円	⇒ 6.0ha 44,798千円
・メロン	2.6ha	30,496千円	⇒ 3.6ha 43,005千円
・西条柿	12.9ha	15,144千円	⇒ 13.6ha 27,200千円
・ゆず	2.8ha	10,868千円	⇒ 3.3ha 11,536千円
・えごま	1.2ha	396千円	⇒ 8.0ha 6,720千円
■農業アドバイザー設置人数 0人 ⇒ 5人			
■石見銀山和牛ブランド化推進協議会 — (なし) ⇒ 協議会設置(H23)・推進事業実施			
■畜産アドバイザー設置人数 0人 ⇒ 2人			
■直売所の農産物販売額(JA石見銀山が運営する4店舗) 91,184千円(ぎんざん市場を除く3店舗分) ⇒ 190,300千円			
■学校給食での地元産農畜産物使用の拡大 — ⇒ 安定的な生産・出荷体制の確立			
■エコファーマー認定数 42件 ⇒ 50件			
■堆肥等利用農産物専用販売ブース設置箇所数 0箇所 ⇒ 3箇所			
■新商品開発チャレンジ事業実施件数 — (なし) ⇒ 事業実施(10件)			
■認定農業者数 74件 ⇒ 83件			
■集落営農組織数 34件 ⇒ 41件			
■担い手不在集落数 139件 ⇒ 110件(解消数29件)			
■新規就農者数 17件 ⇒ 23件			
■農業参入企業数 3件 ⇒ 6件			
■農用地利用改善団体数 14件 ⇒ 20件			
■有害鳥獣対策集落研修会 実施 ⇒ 継続実施			
■鳥獣被害対策実施隊 — (なし) ⇒ 組織化(H24)・支援実施			



Ⅳ. 大田市農業活性化プランの推進のために

「大田市農業活性化プラン」は大田市が進行管理を行い、農業関係団体などで構成する「大田市農林業振興協議会」において施策の進捗状況、取り組み成果の評価、検討を行います。具体的施策については、国や県、関係団体と連携し計画的に事業を展開します。

大田市民・市民団体

- 安心安全な食生活や農村地域の環境保全の担い手として本プランを主体的に推進すること
- 大田市農業の理解者として農業者との連携を図るとともに市内農畜産物の積極的な購入、消費による地産地消の実践

農協（JA）

- 技術指導や経営、販売支援により農業経営を行いやすい環境づくりの推進
- 農業者、農業団体の活性化を図るための取組みの強化
- 農業者、市民、民間団体、行政を結ぶ役割

農業者・農業団体

- 農業の担い手、農地や農業環境の管理者として本プランを主体的に推進すること
- 消費者のニーズや関心に対応した農業生産や販売活動の展開、安心安全な農産物の安定的な供給
- 農業の発展のための市民、他の団体等との連携強化

商工関係・団体・企業等

- 農産物の地域内流通による地産地消の取組みの推進
- 農産物の加工や販売へ向けた人材や経営ノウハウの情報提供

大田市

- 本プランに基づく施策や支援制度の計画的な推進
- 各団体や個人間の連携や活動への支援
- 本プランに関する情報提供、進行管理

大田市ホームページに「大田市農業活性化プラン」の全文を掲載していますので、そちらもご覧下さい。

URL: <http://www.city.ohda.lg.jp/>

大田市農業活性化プラン

検索

大田市役所農林水産課、各支所、各地区まちづくりセンターや、JA石見銀山の本所、各支所などでも「大田市農業活性化プラン」の全文をご覧いただけます。

平成24年3月 発行

大田市 産業振興部 農林水産課

〒694-0064 大田市大田町大田口1111番地

TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-9731 E-mail: o-nousui@iwamigin.jp